



心に残る体験がふるさとを 思うきっかけに しもつま未来学



Project 4

地域づくりチャレンジ事業

児童生徒が地域の祭りやイベントに参加し実践的な活動を通して、人生の多様な選択肢のひとつとして起業を知り、アントレプレナーシップ※を培う機会をつくります。また、地域の多様な人々や社会との関わりから、自分も地域社会の一員であるという自覚や、これからの地域の発展を実現しようとする意識の高揚を図ります。

※様々な困難や変化に対し、与えられた環境のみならず、自ら枠を越えて行動を起こし、新たな価値を生み出していく精神

多賀谷時代まつりチャレンジ 2025



小学生を対象に、歴史のクイズや新聞紙と段ボールで武器を手作りしました。武者行列にも参加し、「自分も地域の一員」という自覚を深めました。

イベントボランティア活動



チャレンジショップ



小貝川フラワーフェスティバル、花とふれあいまつり、しもつま砂沼フェスティバルなどのイベントに参加し、運営補助やチャレンジショップを行いました。

Project 3

職場体験学習事業

市立中学校において実施している職場体験学習の取り組みを継続し、農業体験や加工・生産体験、販売体験などを通じて地域産業を学びます。地場産業が受入先となることにより、地域への愛着と地場産業や地域工芸に対する理解促進を図ります。

農業の仕事を体験



スマート農業に取り組む事業所での体験を通して、「きつい、大変」というイメージを払拭し、魅力的な産業として農業を理解する貴重な機会となりました。

市役所でシティプロモーション体験



市の魅力を伝えるため、動画の撮影や編集、記事作成に挑戦しました。実際にインタビューや写真撮影を行い、自分たちの言葉で「伝わる記事」づくりに取り組み、下妻市の魅力を改めて知ることができました。

教育長 中山 均



市では、学びを人生や社会に生かそうとする人材を育成すべく、学校教育や社会教育に
取り組んでいます。
とりわけ、今年度は、
下妻市キャリア教育推進事業として、「しもつま未来学」を立ち上げ、
教育委員会がコーディネートとなって、学校・地域・行政による一体的なキャリア教育の推進に力を入れています。
この「しもつま未来学」の4つのプロジェクトを通して、たくましく生きる力を醸成し、主体的に下妻市の未来を考える人材を育成していきたいと考えています。

下妻市のキャリア教育推進事業「しもつま未来学」は、学校・地域・行政が連携し、豊かな地域資源を効果的に活用した体験学習や地域活動を通して児童・生徒が「学ぶこと・働くこと・生きること」の尊さを実感し、社会的・職業的自立につながる力を育てます。地域の人々や社会と関わることで自らが地域の一員である自覚を高め、下妻市を「大切なふるさと」として誇りに思い続けられる人材を育成します。子どもたちが将来の選択肢のひとつとして、下妻市で暮らしたいと思えるようなつながりを築く取り組みを、本特集でお伝えします。

Project 2

しもつまで働く人インタビュー事業

「下妻市で起業している人」や「新しい働き方をしている人」など様々な仕事をしている人から話を聞く機会をつくり、多様な仕事のあり方への理解を促します。また、キャリアを形成していく方法について、専門的な知識や情報を持っている外部講師から直接学び、生徒がより主体的に人生の選択をしていけるよう、自己と向き合う機会をつくります。

市長と描く！私の未来、しもつまの未来 2025



中学3年生を対象に、市長による「市長になるまでの道のり」、「ふるさと納税の使い方」の講話を行いました。進路選択を控えた時期に、自分を見つめ直し、将来の進路について考える機会となりました。

職業人に間こう



下妻で働く人の講話では、職場体験の実施前に働く意義ややりがいなどを知ることを通して、望ましい職業観をもつことができました。移住で起業している人の姿を見て、下妻市に残る・戻るという選択肢もあることを学びました。

Project 1

地域の産業を学ぶ教育の実施

下妻市の歴史や地理的特性を認識しつつ、地域の産業が大切な市の資産であり、失ってはならない資源であることを学びます。また、地場産業を将来の職業選択のひとつとしてもらうことも目的としています。

田植え、稲刈り体験



子どもたちが実際に田んぼに入り、稲の生育や農作業の大変さ・楽しさを体験し、身近に食べる米のありがたみを肌で感じていました。

梨選果場の見学



収穫された梨がどのように選別され、箱詰めされて出荷されていくのかを間近で学びました。梨を自動で選別する機械の動きに驚く様子も見られ、地域の産業や働く人への関心が高まりました。